

多くの産業分野に浸透していく ファインバブル技術

終了しました

10/4 水 13:30
2023 ~16:50

日本発の「バブル技術」が四半世紀以上の時を経て「健康・医療」「食糧・生物」「環境・エネルギー」等多くの分野に浸透しています。今回は「水の表面張力」「洗浄効果」「食品加工」に加えて「歴史と可能性」について4名の講師からご紹介いただきます。

ハイブリッド開催

ご挨拶 13:30~13:35

会場：サイエンス交流プラザ(30名)
オンライン：Zoom (120名)



講演 1 13:35~14:20

「ウルトラファインバブル(UFB)水の表面張力」 ~UFBの浸透・洗浄効果に関する基本特性の正しい評価手法とは~

ファインバブル技術産業活用研究会 会長
元 国立研究開発法人産業技術総合研究所

工学博士 兼松 渉 氏

ファインバブル水を機械加工や洗浄などに適用する際、期待される効果に最も関係するパラメータの一つである表面張力について、ファインバブルに起因する低下のメカニズム、適切な測定方法について解説します。



講演 2 14:20~15:05 (オンライン講演)

「特性評価を踏まえたウルトラファインバブル洗浄」

国立大学法人新潟大学 自然科学系 (工学部) 准教授 牛田 晃臣 氏

近年注目を集めている微細気泡の一つであるウルトラファインバブルを用いた洗浄効果について解説します。また、洗浄効果を示す際の特性評価の重要性についても合わせて説明します。

(休憩) 15:05 ~15:15



講演 3 15:15~15:45 (オンライン講演)

「ウルトラファインバブル技術の食品応用について」

ミナミ産業株式会社

代表取締役 南川 勤 氏

ウルトラファインバブル技術を活用した食品加工について、基礎技術や応用研究、当該技術で解決できる社会課題などについて事例を交えて説明します。



講演 4 15:45~16:45 (オンライン講演)

「マイクロバブル技術28年の軌跡と今後の可能性」

株式会社ナノプラネット

代表取締役・大成研究所長 大成 博文 氏

1995年のマイクロバブル技術初公開以来28年を振り返り、いくつかの象徴的な現象を紹介し、その本質的で重要な特徴を明らかにし、それらを踏まえ、今後におけるマイクロバブル技術の発展の可能性を提示します。

閉会 16:45~16:50